

---

# 東北大学陸上競技部

## OB通信

2013年 No. 2 (2013. 6)

---

- ・ 第 66 回東北学生陸上競技対校選手権大会  
女子 10000m 鈴木絢子(3)と男子走幅跳岡崎和貴(4)の 2 名が日本インカレ出場権獲得!!
  - …男子走幅跳岡崎和貴(4)の 7m33 は 26 年ぶりの部記録更新!!!
  - …女子円盤投げ青木千景(1)の 29m17 は 32 年ぶりの部記録更新!!
  - …女子 4×400mR は 二年連続の部記録更新!!!
- 

- ・ 三秀会費納入のお知らせ  
末尾に会計から三秀会費納入のお願いがございます。
- 

・ 東北学連春季競技会	2～3 ページ
・ 宮城県春季陸上競技大会	3 ページ
・ 平成 25 年度春季三秀総会	4 ページ
・ 第 66 回東北学生陸上競技対抗選手権大会	4～19 ページ
・ 自己記録更新者一覧	19 ページ
・ 今後の予定	19 ページ
・ 編集後記	19 ページ

初夏の候、会員の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。いつも皆様の並々ならぬお力添えをありがとうございます、部員一同感謝の想いを切に感じながら日々練習に励んでおります。

今号では、第66回東北学生陸上競技対校選手権大会の結果を中心にお伝えします。

### ◎東北学連春季競技会(4/13~14) …仙台市陸上競技場…

シーズン初戦となる競技会であり、多くの選手が出場しました。初戦ということで欠場者も多く見られましたが、好記録を出す選手も目立ち、今後に期待の高まる大会となりました。出場者の多かった種目を中心に結果の一部を紹介します。

#### ●男子 100m

組(風)	氏名(学年)	順位	記録
2組(+0.4)	南 共哉(4)	3着	11"28
5組(+0.2)	小林 大地(4)	7着	11"67
6組(-1.0)	向出 周太(4)	1着	11"57
7組(-1.2)	藤井 翼(M1)	4着	12"15
8組(-0.3)	畑岡 進(3)	1着	11"37
	工藤 知央(2)	6着	11"92
10組(+3.4)	竹原 大(2)	3着	11"68
19組(+3.8)	山田 健太郎(3)	1着	11"50

#### ●男子 200m

組(風)	氏名(学年)	順位	記録
1組(-1.0)	南 共哉(4)	7着	22"59
2組(-2.4)	高林 佑輔(M2)	5着	22"86
4組(+0.1)	畑岡 進(3)	4着	23"30
	岡崎 和貴(4)	5着	23"47
6組(-2.1)	工藤 知央(2)	2着	23"89
	菅原 大志(2)	4着	24"17
7組(0.0)	向出 周太(4)	2着	23"46
	新田 翔太(3)	6着	24"06
	竹原 大(2)	7着	24"27
13組(-3.4)	本間 大輔(3)	2着	25"28

#### ●男子 400m

組(風)	氏名(学年)	順位	記録
1組	千葉 優人(3)	4着	50"55
	南 共哉(4)	5着	50"72
	柴田 智弘(D2)	6着	52"90
2組	畑岡 進(3)	3着	51"53
	杉浦 弘樹(3)	5着	51"92
3組	岡崎 和貴(4)	1着	51"59

	竹原 大(2)	6 着	53"69
4 組	菅原 大志(2)	6 着	53"46
5 組	新田 翔太(3)	3 着	52"73
6 組	増田 俊太郎(2)	1 着	52"94
	佐藤 基明(4)	6 着	55"22

●男子 1500m

組(風)	氏名(学年)	順位	記録
1 組	三上 和樹(4)	4 着	4'05"05
	山本 悠平(4)	10 着	4'14"27
3 組	進藤 克哉(2)	4 着	4'21"44
	工藤 佑馬(M2)	7 着	4'25"13
4 組	高橋 慧伍(2)	5 着	4'29"38
5 組	大野 慎也(2)	1 着	4'29"10

●男子 5000m

組(風)	氏名(学年)	順位	記録
1 組	菅野 均(M1)	4 着	15'25"83
	藤澤 萌人(4)	6 着	15'32"45
	三上 和樹(4)	8 着	15'41"50
	田辺 明(4)	9 着	15'41"76
	尾形 翔平(M1)	10 着	15'51"95
	山本 悠平(4)	16 着	16'22"74
	北原 慶太(2)	17 着	16'24"11
	南雲 信之介(2)	18 着	16'29"33
2 組	碓井 将也(2)	2 着	16'25"06
3 組	辻川 優祐(M1)	1 着	16'45"55
	安食 雄太郎(2)	10 着	17'52"33

◎宮城県春季陸上競技大会(4/28~29) ..宮城スタジアム(利府)..

この大会は宮城県陸協に登録している選手しか出場できない大会ということで出場者は限られていましたが、我が東北大学陸上競技部からは二名の選手が好記録で入賞しました。

●男子走り幅跳び

氏名(学年)	順位	記録
岡崎 和貴(4)	3 位	7m10(+1.2)

●男子やり投

氏名(学年)	順位	記録
杉本 和志(M2)	2 位	61m18

◎平成 25 年度春季三秀総会(5/8) …片平さくらホール…

5月8日、片平桜ホールで平成 25 年度春季三秀総会が行われました。

佐藤会長、彦坂副会長、宮崎幹事長、吉田監督から挨拶がありました。

平成 25 年度活動予定の報告の後、新入部員の紹介が行われ、出席して下さった先輩方より一言ずついただきました。スムーズな進行により、例年より短時間で終えることができました。

★出席して下さった先輩方(敬省略)★

宮崎鉄男、藤田文夫、佐藤源之、眞山隆徳、彦坂幸毅、菅野均志、吉田真人、小平圭一

◎第 66 回東北学生陸上競技対抗選手権大会(5/17~19) …宮城スタジアム(利府)…

5月17~19日、利府で第 66 回東北学生陸上競技対抗選手権大会(東北インカレ)が行われました。結果は、男子トラック 3 位、フィールド 2 位、女子トラック 5 位、フィールド 6 位でした。全カレ出場を決めたのは 2 人ですが、今年も幅広い競技で入賞者を出すことができ、今後の大会にも期待が高まります。

☆トラック

**男子 100m 予選**

**1-9 4 着 佐々木優人(2) 11"44 (+0.4)**

佐々木はスタートで少し出遅れ、前半は他の選手より遅れ気味であった。しかしトップスピードに乗ってからは、のびのびとした走りを最後まで保ちきって 4 着に食い込んだ。準決勝では前半を改善してより良いタイムを出してほしい。

**2-3 4 着 宮崎 幸辰(1) 11"30(-0.5)**

10"6の自己ベストをもつスーパールーキー、宮崎が登場。大学初戦ながらスタートからゴールまで無駄のない動作で、しっかりとまとめ 4 着でフィニッシュ。まだまだブランクの影響はあるようだが、レースを重ねるごとにタイムが伸びていくことを期待する。

**5-7 5 着 小林 大地(4) 11"32(+1.5)**

小林はスムーズな加速を見せ、他の二選手と競り合う展開になったが、まだ本調子ではないようで身体の動きに少し固さがみられ、競り負けてしまい 5 着となった。今

後の飛躍のためには、後半に競り負けない粘り強さが必要不可欠となるだろう。

**男子 100m 準決勝**

**1-8 5 着 宮崎 幸辰(1) 11"20 (-0.5)**

宮崎は予選よりも身体がほぐれた様子で、100m のレースの流れには文句のつけようがなく快調な走りをみせた。タイムも予選より 0.1 秒縮まったが、惜しくも決勝進出を逃した。この様子を見る限り、10 秒台を出す日はそう遠くないだろう。

**2-2 6 着 小林 大地(4) 11"30 (0.0)**

小林はスタートから大きく出遅れ、ゴールまでその差を巻き返すことができなかった。タイムは予選とほとんど変わらなかったため、スタートの失敗が悔やまれる。現在、短短は力のある新入生の勢いが強いので、4 年の意地をみせ頑張してほしい。

**3-2 8 着 佐々木 優人(2) 11"47 (-0.2)**

佐々木は予選に比べ良いスタートを切ったものの、中盤から周囲とじりじりと差を広げられてしまった。まだまだ本調子ではなく、スタミナ不足のためか、2 本目のレ

ースということで疲れも見えた。ポテンシャルはあるのでより練習を積んでほしい。

### 女子 100m 予選

#### 1-2 8着 千葉 愛里沙(3) 13"46(+0.2)

千葉はスタートから少し身体の起き上がりが早くなってしまった様子。それでも中盤はスピードに乗ってしっかり走れていたが、後半はわずかに動きが固くなってしまったように見えた。久しぶりのレースということもあり、まずは安定して100mの走り方を定着させることが課題である。

### 男子 200m 予選

#### 1-4 2着 南 共哉(4) 22"59(-1.4)

南はスタートからスピード感のある走り出しで安定したコーナリングを見せ、得意の後半に入った時には準決勝進出は確実であった。トップの選手を視界にとらえながらしっかりまとめて2位をキープした。

#### 2-8 5着 杉浦 弘樹(3) 23"72(-1.1)

杉浦は慎重なスタートで前半はゆったりとした走り。400mの選手であるため、後半での巻き返しを図ったが、前半の遅れからスピードに乗り切れず5着でフィニッシュした。それでもプラスに入り、準決勝進出を決めた。

#### 3-8 5着 小林 大地(4) 23"53(-1.9)

小林は前日100mを3本こなした疲労もあってか、得意の前半で置いていかれてしまい、最後までその差を縮めることができなかった。後半は向かい風の影響もあり苦しそうな走りであった。そんな中でも勝負強さを見せ、準決勝進出を決めた。

### 男子 200m 準決勝

#### 1-4 3着 南 共哉(4) 22"22(-0.8)

南は前半から積極的な走りでアウトレーンの選手を追いかける。コーナーから素晴らしい加速をみせ、後半でしっかり前との差を詰め、トップと0.08秒差の3着でフィニッシュ。自己ベストであったが、1組目だけ向かい風という不運も重なり、0.03秒差で惜しくも決勝進出を逃した。

#### 2-2 7着 杉浦 弘樹(3) 23"22(+0.6)

杉浦は予選に比べるとスタートから攻めの走りを見せ、隣の選手をカーブで捉えたが、先頭集団からは少し離されてしまう。得意の後半でもストライドが伸びず、その差を詰めることができなかった。しかし予選に比べると大きくタイムを縮めており、200mの走りにもっと慣れることで自然とタイムも上がっていくだろう。

#### 3-3 7着 小林 大地(4) 22"95(+1.4)

小林の組は21秒台が3人出るハイレベルな組であった。スタートから外側の選手が飛び出し、前半から置いていかれる苦しい展開となった。小林の持ち味であるスピードをどれだけ活かせるかが今後のカギとなるだろう。



▲男子 200m で自己ベストをだした南(4)

### 女子 200m 予選

#### 1-5 5着 中山 なつみ(4) 26"86(-1.1)

中山は苦手なスタートで両隣の選手に遅れをとってしまい、うまく流れに乗れなかった。しかし最後まできれいなフォームを崩すことなく安定した走りでゴールした。就活の影響もあろうが、本来の走りはこの程度ではないので今後調子を上げてほしい。

#### 1-7 6着 浅見 恭子(宮城大2) 27"77(-1.1)

浅見は前半から積極的な走りで外側の選手を追いかけ加速。後半は前方にいる中山を追うも、引き離され苦しそうな走りとなってしまった。前半のスピードを後半に繋げられればタイムはぐっと伸びるであろう。

#### 2-2 5着 千葉 愛里沙(3) 27"97(-0.6)

千葉は100mと同じく、スタートから身体が起き上がるのが早かった。前半は抑えた走りであったが後半では大きな走りですっきり加速できていた。前半でもっと思い切った走りをしてみるとよいだろう。

#### 3-7 5着 下島 千歩(4) 27"85(-1.3)

下島は前半から他の選手に先行されてしまい、得意の後半でその差を詰め切ることができなかった。後半には疲れも見えたが、最後まで大きなストライドであった。400mの選手という特性を活かし、後半でのスピードの維持を目指したい。

#### 男子 400m 予選

#### 3-4 2着 南 共哉(4) 49"67

南は、前半は、前にいる福祉大の選手との間合いをとりながら慎重な走り。300mまで様子を見ながらトップの選手につき、ラスト100mで一気にスパートをかけたが、トップの選手には追いつくことができず2着でフィニッシュ。それでもプラスで拾われ、決勝へとコマを進めた。

#### 4-7 2着 畑岡 進(3) 50"16

畑岡は前半からかなり積極的な攻めの走りをみせる。後半はわずかに疲れも見えたが、最後までトップ選手を懸命に追いかけ、渾身の走りで見事自己ベストを出した。惜しくも決勝進出はならなかったが、49秒台も見えてきて今後に期待が高まる。

#### 5-5 1着 高林 佑輔(M2) 48"96

優勝候補ともいわれる高林は、前半からハイスピードで集団を引っ張り、自分からレースを作っていた。後半は後続の選手も追い上げてきたが、危なげなく最初から最後までトップを守りきった。

#### 男子 400m 決勝

#### 5位 南 共哉(4) 49"20

南は、序盤から走り慣れた400mでの自分のペースを守り、300mまでは安定感のあるスマートな走りをみせた。ラスト100mではキレのあるスパートをかけ、先輩である高林を追い抜き5位に入った。残り20mは少し身体が浮いたようにも見え、まだ推進力はあげられるだろう。マイルでの走りにも期待が高まる。

#### 7位 高林 佑輔(M2) 49"29

高林は予選同様、前半から攻めの走りをみせるが、内側の選手に並ばれてしまう苦しい展開となった。また、予選でのタイムが速かったことの疲れもあってか、ラストの100mではスピードがかなり落ちてしまい、最後まで差を詰めることはできなかった。マイルでは本来の走りを見せ、チームを引っ張ってほしい。



▲男子 400m で激走する高林(M2)

### 女子 400m 予選

#### 2-3 7着 房内 まどか(M1) 69"54

房内は前半から他の選手に置いていかれる苦しい展開で、後半も流れに乗れず、レースに絡むことができなかった。まだスピード、持久力共に本調子ではないようだが、シーズン始めなのでこれから徐々に調子を上げていってほしい。

### 男子 110mH 予選

#### 1-2 5着 工藤 知央(2) 15"90(-0.6)

工藤はリラックスした様子でスタート。レースを通じて特にミスは見られなかったが、序盤から隣の選手に先行され、今一つリズムに乗り切れなかったようであった。惜しくも全体の9位で予選落ちしたが、この悔しさを 400mH にぶつけてほしい。

#### 1-7 3着 向出 周太(4) 15"69 (-0.6)

ベスト更新を狙う向出。レースは前半から勢いあるハードリングで流れに乗ってはいしたが、動きが固くラストに伸びていかなかった。抜き足が少しぎこちなくロスが生まれているので、もう少しなめらかな動き

を意識するとよいだろう。それでもしっかりと3着に入り、決勝進出を決めた。

#### 2-2 7着 佐藤 弘隆(1) 18"06(-0.9)

大学デビュー戦となる佐藤。前半は1台目からスムーズなハードリングであったが、中盤以降、腰が引けてしまい、ストライドが伸びず完全にリズムが崩れてしまった。まだ体力も戻っていない状況だと思うので、焦らず練習を積んでいってほしい。

### 男子 110mH 決勝

#### 8位 向出 周太(4) 16"03(-1.6)

向出は他の選手と並ぶ良いスタートを切ったが、2台目のハードルに脚をぶつけてしまい、リズムが崩れてハードル間をうまく刻んで走ることができなかった。ベスト更新まであと一歩というところまで来ていただけに、大事な場面でのミスは本人が一番悔しく思っていることだろう。次の大会ではベスト更新を期待する。

### 男子 400mH 予選

#### 1-6 4着 工藤 知央(2) 56"57

工藤は強みである華麗なハードルさばきを活かし、前半から攻めの走りを見せた。前方の選手とはインターバルの走りで差がつけられてしまったが、走力を無駄のないハードリングで補い、4位に食い込んで見事決勝進出を決めた。

#### 2-6 1着 千葉 優人(3) 54"91

千葉は前半からのびのびとした余裕のある走りを見せ、ハードリングにも走力にもキレがあり他の選手を圧倒してみせた。1位をキープしてのゴールであったがまだまだ力を余している様子であり、決勝での走りに期待が高まる。

#### 3-5 3着 柴田 智弘(D2) 57"07

柴田は、前半は外側の選手に引っ張られるような形についていったが、6台目でハードルと足が合わず、減速してしまったことがもったいなかった。惜しくも決勝進出はならなかったが、経験も実力も十分の選手なので今後のレースに期待である。

#### **男子 400mH 決勝**

**4位 千葉 優人(3) 53"86**

千葉は前半から攻めの走りで200m通過時点では3位につける。しかし後半はじりじりと差を広げられ、ラスト100mでは大きく先頭集団から離されてしまい、独走状態となったまま4位でフィニッシュした。本人はマイルのことも考え、最後は抜き気味に走ったというが、それでもタイムは悪くないので、まだまだ伸びしろは十分ある。

**7位 工藤 知央(2) 55"96**

工藤は前半から飛ばしてスピードにのり、予選に比べ流れに乗った快調な走りであった。ラストは7位争いとなったが、胸を突き出した豪快なフィニッシュで見事競り合いを制し、7位をもぎ取った。彼の特徴は、スピードに乗るとハードルで身体が浮き気味になることであり、如何にスピードを殺さずハードリングするかが課題である。

#### **男子 4×100mR 予選**

**1-5 3着 43"02**

**畑岡(3)-宮崎(1)-阿部(1)-小林(4)**

10秒台のベストをもつ新戦力2人を加入した男子四継は今後の成長に期待が大きい。その幕開けとなる今回のレース。

一走畑岡はスタートでわずかに遅れをとるが、中盤以降でスムーズな加速をみせ、二走の宮崎へ。ここでのバトンはいずれも詰まってしまう。宮崎は本日3本目のレースであったが、安定した走りでエース区間を駆け抜け、三走阿部へ。阿部は大学デビュー

戦。この一年生バトンもやや詰まってしまうが、阿部はきれいなフォームで周りの選手に引けをとることなく四走小林へと繋ぐ。このバトンパスは合格点といったところ。この時点で前との差は大きすぎ、小林は独走状態であったが、しっかりと3位をキープし決勝へとコマを進めた。

#### **男子 4×100mR 決勝**

**6位 42"79**

**南(4)-宮崎(1)-阿部(1)-小林(4)**

一走南は落ち着いたスタートを見せ、安定した走りではあったがやや周囲と遅れる形で二走宮崎へバトンを繋ぐ。ここでのバトンは少し詰まってしまう。宮崎は、他チームのエースに追いつくには至らなかったが、堂々とした走りでバトンは三走の阿部へ。ここでのバトンも予選同様詰まってしまった。走準に変更はないので予選からの調整をしてほしい。阿部にバトンが渡った時点で、既に集団の後方であり、阿部は内側の選手を追いかける苦しい展開。四走小林へのバトンパスは、予選よりも改善が見られうまく決まったが、前集団との差は既に大きく、追い抜くことはできず6位に終わった。若いチームであり、特に一年生2人は伸び代が大きいので、これからである。

#### **女子 4×100mR 決勝**

**7位 52"02**

**下島(4)-中山(4)-千葉(3)-渡邊(1)**

昨年部記録を更新したメンバー3人に新戦力渡邊の加入で、記録への期待がかかる女子四継。

一走下島はスタートでわずかに他の選手に遅れをとってしまうが力強い走りで二走中山へ。バトンは一発でうまく渡せず若干ロスがあったが、中山は素晴らしい加速でエース区間でも引けをとらない走りを見せた。三走千葉とのバトンは程よく決まり、



千葉は安定した走りで外側の選手を追いかける。四走渡邊とのバトンはぴったりハマった。渡邊はこの日走高跳と走幅跳に出場しており、後半の走りには苦しさも見えた。1人に抜かれたが最後までしっかりと走りきった。今後の部記録更新に期待したい。

### **男子 4×400mR 予選**

**1-4 3着 3'22"75**

#### **高林(M2)-畑岡(3)-杉浦(3)-新田(3)**

短長は選手層が厚く、400mHに出場する千葉とエース南を温存したこのレース。

一走高林は貫禄すら感じる走りで終始トップをキープし、安定した状態で二走畑岡へバトンパス。二走畑岡は、飛び出してきた福祉大の選手に前半から食らいついていき、速い流れを維持したまま後半へ。しかし、ホームストレートで前の選手のスピードの変化に対応しきれず、トップとはわずかに離されてしまう。三走杉浦は守りの走りに出て、スピードに乗り切れず前半からトップとの差を広げてしまった。そのまま後半も加速には至らず、2位を争う形で四走新田にバトンパス。新田は前半からかなり積極的な走りで飛ばし、後続の選手を引き離しにかかったが、相手も粘り強く、最終カーブで抜かれてしまった。ホームストレートでは前半の疲れが来たのかストライドが狭まり、辛そうではあったが3位でフィニッシュし決勝進出を決めた。

### **男子 4×400mR 決勝**

**4位 3'15"32**

#### **高林(M2)-畑岡(3)-千葉(3)-南(4)**

全カレ出場に燃える男子マイル決勝。一走高林は前傾したグイグイ引っ張るような走りで序盤から飛ばし、ほぼトップで二走畑岡へバトンを渡す。畑岡は持ち前の大きなストライドで伸びやかな走りを見せる。エース区間でどうしても周りの選手が速く、

100m地点前に1人に抜かれ、200~300にかけて順位を守りぬく必死の走りをしたが、ラストの直線ではやや失速し3人に抜かれてしまった。それでも、全力を尽くしたまさに魂の走りであった。続く三走千葉は他四人と団子になる形でのスタートとなった。バックストレートで飛び出し、他選手を抜き去るが、ラストの直線で再び追い上げられ、ポケットされるような形で苦しい状況となる。それでも確実に四走南へバトンを繋ぐ。アンカー南も、他4人と団子状態での走り出しとなり、ポケットされて第二コーナーまで勝負を切り出せない。他の選手と実力が拮抗していることもあり、並走状態が続く。200mを越えたところで勝負をかけようとしたが、前にいた福祉大の選手も外へ膨らんできて勝負を仕掛けてきたため、完全にタイミングを見失った。結局順位を変えることはできなかったが、最後まで勝負の分からない僅差のレースであった。

### **女子 4×400mR 決勝**

**7位 4'13"02**

#### **下島(4)-渡邊(1)-千葉(3)-中山(4)**

四継と同じく、部記録に期待がかかる女子マイル。一走下島はメンバー唯一の400m選手であり、200~300mまで他の選手に食らいついていく。最後の直線では少し置いていかれるが、最後まで大きな走りで力走した。続く二走渡邊は序盤から速いピッチで飛ばしていく。300mまでは快調そうに見えたが、ホームストレートではかなり苦しそうな走りとなる。それでも、前方との差を開かせることなく精一杯走りきった。三走千葉は、いつになく前半から力強い走りを見せた。前の選手とはかなり差があり、厳しい状況ではあったが、後半も諦めず懸命に追いかけ、バトンはアンカー中山へ。中山は得意のスピードを前半から惜しみなく発揮し、前方と50mほどあった差を

10~20m まで縮めた。最後まで安定感のある走りで締めくくった。初メンバーで女子は久しぶりのマイルであったが、見事部記録を達成した。



▲部記録更新の女子マイルメンバー

#### 男子 800m 予選

2-6 3着 金子 修平(4) 1'59"54

金子は軽快な走り出しで先頭四人の集団の2番手につけ、一周目の通過は58秒。ラスト200mまでは大きな動きはなかったが、ホームストレートで前にいた1人が落ち、反対に後ろからトップに出てきた2人に食らいつき3着でゴール。決勝進出を決めた。

3-6 2着 三上 和樹(4) 1'59"59

宿命のライバル弘前大の有田と同組となった三上。予選ながら緊張感の漂うレースとなった。レース前半、三上は慎重な走り、2番手についた有田の後ろにつく形で400mを58秒で通過。ラスト300mから徐々にペースを上げ始め、ラスト200mで三上が先頭に飛び出し逃げ切りを図る。ラスト100mで再び有田が前に出て、最後までデッドヒートを繰り返すも、競り負けて2着でゴール。1'59"59のタイムで決勝進出を決めた。

#### 男子 800m 決勝

7位 三上 和樹(4) 2'00"90

8位 金子 修平(4) 2'01"84

2人が決勝に残り、三上が2レーン、金子が8レーンでのスタート。スタートから100mにかけて、三上が積極的に前に出て、金子は反対に後方につける形となる。三上はそのまま集団を引っ張り続け、400mの通過はトップで56秒、金子は7番手で58秒であった。三上は500mを過ぎたあたりから失速し始め、後ろにつけていた他選手に続々と抜かされてしまう苦しい展開。それでも必死に粘るが、ラストスパートをうまくかけられず7着に終わった。金子も終盤まで順位を変えることができず、8着でフィニッシュ。

#### 女子 800m 予選

1-2 7着 榊原 真璃子(2) 2'51"90

榊原はスタートから勢いのある走りを見せる。腕を大きく振る元気のいいフォームを保って、400mの通過は76秒。二回目からは疲れが見え、他の選手とも差が開いてかなり苦しそうであったが、最後まで懸命に走りきった。

#### 男子 1500m 予選

1-8 5着 三上 和樹(4) 4'04"90

三上は序盤は集団の中程につけ、やや抑えぎみに最初の400mの通過は65秒。そのまま少し順位を下げ、集団の後方で様子を伺いつつ次の400mの通過は69秒。残り400m地点で全員が一斉にスパートをかけ、三上も先頭集団に出る。ラスト200mでも先頭集団は激しいスパートを繰り返すも、三上も必死に食い下がって5着でゴールし、決勝進出を決めた。

2-9 6着 大野 良輔(M1) 4'09"34

2-5 8着 山本 悠平(4) 4'15"82

2人共に集団の中程に紛れるようにスタート。最初の400mまではほぼ並んで65

秒での通過。500m に差し掛かったところで山本がペースを上げ、集団の前方に移動。大野も少し順位をあげるが、先頭集団の後方につけて様子を見る。残り 400m で両者ともにスパートをかけるが、山本が先頭集団からわずかに遅れをとる。大野は必死についていったが、トップには及ばず6着でフィニッシュ。山本も最後まで粘ったが8着となり、決勝進出はならなかった。

### 男子 1500m 決勝

6位 三上 和樹(4) 4'02"76

三上はスタートから集団の後方につけ、最初の400mは予選とほぼ変わらず64秒で通過。そこから徐々にペースを上げて集団の前方に順位を上げていく。次の400mではほぼペースを落とさず、65秒で通過。ここで大きな集団がばらけ始め、三上は先頭集団の後方につけて、ついていく形となる。ラスト400mから先頭集団が一斉にスパートし、三上も4位を争って懸命に走ったが、及ばず6位となった。

### 女子 1500m 決勝

7位 宮間 志帆(2) 4'45"83

15位 塩谷 美菜子(2) 5'10"61

17位 榊原 真璃子(2) 5'32"63

2年生3人の出場。予選なしの一発決勝となったこのレース。スタートから、レースの前半は縦に長い集団となって展開され、宮間はその大集団の中程、塩谷は後方に位置し、榊原はついていけず遅れて独走となる。800mを過ぎたところで、塩谷も集団から離されてしまう。ラスト一周の鐘がなったところで、集団は一斉にスパートをかける。宮間はうまくスピードにのって粘りの走りを見せ、7着でゴールし入賞した。塩谷、榊原は激しい争いには絡めなかったが、それぞれ自分の走りをして、塩谷が15位、榊原が17位でゴールした。



▲女子 1500m で7位にくいこんだ宮間(2)

### 男子 3000mSC 決勝

4位 尾形 翔平(M1) 9'42"96

7位 深渡 慎一郎(4) 9'54"47

10位 南雲 信之介(2) 10'15"06

2組タイムレースの予定だったが、1組となつての決勝となった。序盤、尾形は2位争いの集団の先頭、深渡、南雲は7位争いの集団の先頭につける。3名ともその状態を保って走っていたが、尾形は1000mを3'07で通過した後、集団後方に下がる。7位争いの集団は1000mを3'10で通過してから一気に集団がばらけ始め、深渡は単独の7位、南雲は9位争いをする展開となる。2000m手前で尾形が勝負に出て、ペースをあげ2位に躍り出る。2000mの通過は尾形6'28、深渡6'36、南雲6'40。尾形は2位を守ろうと逃げ切りを図ったが、疲れが見え始め、一時順位を5位に落としてしまう。それでも粘ってラストスパートで1人をおかわし4位入賞となった。深渡は最後まで独走の7位をキープし入賞した。南雲は9位争いに勝ちきれず10位でゴールとなった。

### 男子 5000m 決勝

1-9 26位 佐藤 泰介(宮城大 3) 16'53"47

佐藤は序盤は集団の中程につけ、先頭がハイペースでいく中、落ちついて自分の走りをする。1000mの通過は3'13。そのまま

周囲に乱されることなく、ペースを守り、3000mの通過は10'00。中盤で一度ペースを落としたが、後半再び盛り返し、ペースを上げていった。ラストの1,2周は快調な良い走りであり、後半の追い上げで何人もの選手を抜き去ったが、惜しくも狙っていた組1位は叶わなかった。

**2-3 2位 高橋 佳希(2) 15'21"06**

**2-16 4位 菅野 均(M1) 15'36"26**

**2-14 13位 田辺 明(4) 16'09"34**

スタートから決勝にしてはスローペースな展開となった。1000mのトップ通過は3'13。3名とも様子を見つつ集団についていくが、福祉大の二選手がペースを上げて前に出ると、菅野は先頭集団につき、高橋は集団の中程、田辺は後方に落ち着く。3000m過ぎ辺りから集団が崩れ始めると、高橋が徐々に追い上げ、4000mにかけての間に4位につける。その後も順調に前との差を詰め、ラスト一、二周で2位となる。トップ走者とは差があったが、最後までペースを落とすことなく、3位の富士大を突き放して見事2位となった。菅野は、高橋に抜かれてからも粘りの走りを見せ、4位入賞。田辺は自分のペースでレースを進めたが、最後まで上げきれず、13位に終わった。



▲男子5000mで準優勝の高橋(2)

### **女子 5000m 決勝**

**4位 宮間 志帆(2) 17'48"25**

**9位 梶山 あずさ(2) 19'25"65**

スタートから宮間は先頭集団、梶山が後方集団に位置する。先頭集団のペースはやや速く、1000mの通過が3'20で宮間も警戒し集団から離れるが、その後も粘って走りきる。後半は暑さと不調のためか、珍しくきつい走りとなった。梶山も中盤までは安定したペースで自分の走りができていたが、終盤は苦しそうでペースがガクッと落ちてしまった。

### **男子 10000m 決勝**

**3位 斎藤 寛峻(4) 32'01"13**

**4位 高橋 佳希(2) 32'05"21**

**7位 藤澤 萌人(4) 32'52"48**

スタート直後は3人とも固まって落ち着いた走り出し。400mを過ぎたところで、高橋が前に出て先頭集団に入り、藤澤と斎藤は第二集団につける。その状態を保って1000mの通過は高橋3'06、藤澤3'13、斎藤3'14。1400mを過ぎたあたりで集団が安定し、高橋は先頭集団の最後尾、藤澤が第二集団を引っ張り、斎藤がその集団の最後尾にそれぞれ落ち着く。3000m地点で、藤澤引っ張る第二集団が少しバラけ、落ちてきた人を着実に斎藤が抜いていく。3400m付近で、先頭集団のラップが落ち始めたため、高橋が思い切って前に出てトップにつける。しばらくその状態が続き、4800m付近で斎藤が藤澤の引っ張る第二集団を追い越し、藤澤が斎藤についていく形となる。5000mの通過は高橋15'、斎藤16'16、藤澤。6000m通過で、斎藤、藤澤が共にペースをあげる。高橋はトップを保ち3'17/kmのペースを守る。斎藤はさらにペースを上げて、着実に追い上げ、徐々に先頭集団との差を詰めていく。8400m地点でついに斎藤が先頭に立

つ。抜かれた高橋も負けじとそれについていく熱い展開となる。しかしラスト 1000m で富士大、福祉大の二選手が追いついてきて、齋藤と高橋が 3 位争いとなる。ラスト 200m まで勝負の行方はわからなかったが、ラストスパートで齋藤が 4 年の意地を見せ、3 位を勝ち取り表彰台にのった。高橋は 4 位、藤澤も堅実な走りで 7 位と全員入賞を果たした。



▲男子 10000m で 3 位を勝ち取った齋藤(4)

### 女子 10000m 決勝

優勝 鈴木 絢子(3) 36'35"34

連覇に期待のかかる鈴木が出場。鈴木はスタート直後から集団を引っ張り、1000m は 3'40 で通過。そこから 5000m まではほぼ集団に変化がなく、3'40~45/km の比較的余裕のあるペースで鈴木は先頭を走り続ける。そこから 5000~6000m にかけて、鈴木は一気に 3'30/km までペースを上げて集団を揺さぶり、先頭集団を 3 人に絞らせた。その後は一時的に先頭を譲り、ペースも落ちついてしたが、残り 3000m から再び仕掛け、鈴木はトップで独走状態に入る。完全に鈴木がレース展開を掌握しているようで

あった。そのままリードを守りきって、危なげなく優勝し二連覇を達成した。



▲女子 10000m で二連覇達成の鈴木(3)

### 男子 10000mW 決勝

4 位 角川 拓也(4) 46'06"73

シーズンごとに著しい成長を見せる角川の出場。上位入賞が期待される。スタート直後は先頭の岩手大についていくも、徐々にペースを落ち着かせ、自分の歩きをする。そのまま安定し、5000m の通過は 22'30 で単独 5 位。しかしこの時点で反則を 2 回とられてしまう。それでも角川は臆することなく攻めの歩きを見せ、5000m 過ぎに 4 位の選手をとらえ、2 人で 4 位争いとなる。勝負は分からないまま、8000m 手前で 2 位の選手が失格となり、表彰台がかかった争いとなってますます白熱する。ラスト 1100m の地点で 1 位の選手に周回で抜かされたことをきっかけに、角川と争っていた相手がスパートをかけ、角川はそれについていくことができず 4 位でゴールし、惜しくも表彰台を逃した。

### ☆フィールド

#### 男子 走高跳

3 位 山田 健太郎(3) 1m98

連覇のかかる山田は、慎重に 1m89 からの挑戦。これは前半の助走を抑え、うまく踏み切って難なく一発でクリア。続いては 1m93 をパスして 1m95 から挑んだが、一本目は少し身体が流れてしまいバーに接触してしまっただ。二本目でうまく調整し、きれいな跳躍でクリアした。続く 1m98 は山田の自己ベスト記録であったが、これを一発でクリア。助走の動きもより良くなり、余裕のある一発クリアに、ベスト更新への期待も高まる。続く 2m01 は山田にとって未知の大台。一本目は少し力が入ったようで、ブロックが甘く流れてしまいバーを落とす。二本目も、一本目よりは身体が上がっていたが、やはり流気味でバーに身体が触れてしまった。三本目は、動作はうまく出来ていたが、やや流れた跳躍となり惜しくもバーは落ちてしまった。連覇はならず 3 位となったが、全体的にあと僅かという印象であり、次こそ 2m 超えを期待したい。

#### 8 位 奥 裕之(4) 1m86

奥は 1m80 からの挑戦。一本目はゆったりとした跳躍。足が触れてバーが揺れたが、運良くクリア。続く 1m83 は、一本目は上手い跳躍で身体もしっかり浮いていたが、足首がバーに当たってしまい、惜しくも失敗。二本目は、助走があまり活かせていないようで、また足がバーに当たって落としてしまう。あとがない三本目は、力が入ったのか少しぎこちない助走となったが、高さのある跳躍で見事クリアしてみせた。続く 1m86 の一本目は、足が合わなかったのか踏み切りが遠く、身体は上がっているのにバーと合わず落としてしまうもったいな跳躍であった。二本目は、助走のカーブの動きに改善が見られ、余裕のあるクリア。続く 1m89 は、一本目は空中で勢いを失い、完全にバーにぶつかってしまう。二本目も、高さが出ずバーに腰が当たってしまった。

1m86 の時に比べスタミナと集中力が厳しくなっているのかもしれない。ラスト三本目も、うまく修正できずにバーを越えることができなかった。

#### 女子 走高跳

##### 7 位 渡邊 朝美(1) 1m50

1m59 のベストをもつ期待の新人、渡邊が出場。1m40 は一本目で余裕のあるクリア。続く 1m45 は、助走がうまく合わず窮屈な踏み切りとなり、バーに触れたが、それでも一発でクリアした。続く 1m50 は、一本目はやはり踏み切りで詰まり、肩に当たってバーを落としてしまった。二本目は走り出しはよかったが、後半の助走がやや雑で、高さのある跳躍ではあったが惜しくもバーを落としてしまった。三本目は、うまく修正して身体を合わせ、何とかクリアした。1m55 の一本目は短助走の入りかぎこちなく、バーを落としてしまう。二本目は、ブロックができず身体が流れてしまった。踏み切りの弱さが課題。三本目はうまく調整してきたが、惜しくも腰をかすってバーが落ちてしまった。入部してからほとんど跳躍練習を積めていない状況だったので、これからどんどん伸びていくだろう。

#### 男子 棒高跳

##### 白井 孝明(D2) NM

ベテラン白井は 4m50 からの挑戦。一本目はバーに足がぶつかってしまい失敗。続く二本目は、きれいな跳躍で身体はクリアしたが、最後のところでバーを避けきれず、ぶつかってしまった。あとがない三本目は、身体をバーに合わせきれず、足がぶつかって失敗となった。記録を残せず、悔しい試合となってしまった。

##### 10 位 佐藤 裕貴(4) 3m80

成長著しい佐藤は 3m80 からの挑戦。一本目は助走スピードが足りない模様で、うまく形にならなかった。ケガの影響が伺える。二本目も助走からの流れが悪く、身体がバーに引っかかり落としてしまった。三本目で意地を見せ、なんとかまとめてバーを越えクリア。しかし、ここでハムの痛みのため、試合を棄権せざるを得なくなってしまった。残念だが、いまは焦らず、治療に専念してもらいたい。

## 2位 高橋 拓実(1) 4m60

高校からの実績をもつ期待の一年生高橋は 4m30 からの挑戦。一本目からうまくまとめて完全にバーを越えたが、運悪くポールがバーに当たってしまい失敗となる。二本目は、跳躍の頂点がうまく合わずに身体が上がる途中でバーに接触し、失敗。追い詰められるが、続く三本目はうまく調整し、ジャストのタイミングできれいにバーを越えてみせた。続く 4m50 の一本目は、足がぶつかってしまい、惜しくも失敗。二本目もしっかり合わせてきたが、わずかに身体が触れてしまいミスとなった。再び追い詰められる高橋だが、三本目の跳躍は助走の勢い、跳躍の高さ、タイミング共に完璧であり、美しい跳躍で観客を魅了した。続く 4m60 は、クリアすれば高橋の自己ベストとなる記録。高橋はこれも比較的余裕のある跳躍で、理想的なバーの越え方をしてみせ、見事一発クリアする。勢いづいての 4m70 では、一本目で身体は完全に越えたが、お腹あたりにバーがぶつかってしまい惜しくも失敗。二本目は、先ほどより高さが足りず、足がぶつかって失敗となった。最後の三本目も、調整しきれず、同じような跳躍をしてぶつかり、ミスしてしまった。一年生の初戦ながら自己ベストを出し、2位に食い込んだことは素晴らしい。



▲男子棒高跳びで準優勝した高橋(1)

## 男子 走幅跳

### 優勝 岡崎 和貴(4) 7m33(+0.1)

昨年、惜しくも準優勝となった岡崎。最初の跳躍は 7m21(+3.8)。なめらかな動作でいきなり好記録をマークしたが、まだまだ余裕が感じられる。続く二本目は先ほどより力のこもった跳躍。記録もわずかに伸び、7m23(+2.7)。この時点で既に岡崎は他選手を圧倒して助走、踏み切り、跳躍共に安定しており、記録への注目が高まる。三本目は、ピッチアップの途中で一瞬バランスを崩し、わずかにファールとなった。トップ通過での四本目は、軽快な助走からピッタリの踏み切りで、高く長いジャンプ。文句のつけようのない完璧な跳躍であった。記録は 7m33(+0.1)と自己ベストを叩き出し、他選手を引き離す。もはや岡崎の独壇場である。五本目は高さのある跳躍だったが、そのために空中姿勢が少し崩れてしまいファールであった。最後の跳躍は、四本目に比べるとピッチアップで重心が下がりすぎていたように見えたが、やはり高さのある素晴らしい跳躍をして見せ、7m24(+4.0)で最後まで観客を惹きつけ、見事に優勝を飾った。



▲男子走幅跳びで優勝&部記録達成の岡崎(4)

### 17位 田中 悠貴(4) 6m41

田中は、最初の跳躍からキレのある動作でうまく合わせ、6m41 をマーク。二本目も、踏み切りは合っていたが、ピッチアップが不十分に見えた。もう少し助走を跳躍に活かしたいところ。記録は 6m21 と一本目には及ばなかった。続く三本目は、決勝進出をかけて気合の入った動作ではあったが、軸がブレてしまい、ピッチアップもうまく出来ていなかった。それでも足を合わせ、6m30 の記録を残した。決勝進出はならず、記録も納得のいくものではなかったようだが、焦らず調子を上げてほしい。

### 女子 走幅跳

#### 9位 中山 なつみ(4) 5m01

中山は最初の跳躍はやや慎重な走り出しで、踏み切りを 10cm ほど余してしまった。もっと勢いがあれば、足も合って記録も伸びそうである。記録は 4m78。続く二本目は、助走スピードをうまく上げていき、先ほどより速さのある動作で、踏み切りも合っていた。記録は大きく伸ばして 5m00。最後となった三本目は、全体的に流れの良いうまくまとめた跳躍であったが、若干小さくまとまり過ぎていた。持ち前のスピードを活かして、よりダイナミックに跳べる可能性がまだまだあるので、もっと自分ら

しい跳躍が出来れば、記録もグッと伸びていくだろう。

### 11位 渡邊 朝美(1) 4m85

一年生渡邊の最初の跳躍は、初戦ながら踏み切りはピッタリで、きれいにまとまっていた。記録は 4m75。続く二本目は、助走が乗れず、先ほどよりもスピードが少し足りない様子。それでも走力を跳躍力でカバーして記録を伸ばし、4m85 をマークした。最後の跳躍は、これまでで一番助走のスピードに乗れていたが、わずかに足が合わず惜しくもファールとなった。本来力のある選手であるだけに、本人が一番もどかしい思いをしていることだろうが、焦らず身体を戻して行ってほしい。

### 男子 三段跳

#### 7位 須藤 海(1) 14m03

大学初戦となる須藤。一本目は、踏み切りに合わせようとするあまり、スピードが落ちてしまい、ファール。続く二本目は、一本目より走れていたが、ステップが潰れ気味。それでも 14m03 の好記録を残した。三本目は、前半の助走スピードを上げすぎ、後半で失速した。やはりステップ、ジャンプの流れで潰れてしまい、記録はガクッと落ちて 13m20 であった。一年生ながら二本目の記録で決勝進出を決め、続く四本目は、いまいち助走が刻めず、無難な跳躍で記録は 13m87。五本目は、うまく流れにのったが、着地がきれいに決まらず、腕が残ってしまいもったいなかった。記録は 13m80。最後の跳躍は、助走、ステップと今までで一番決まっていたが、5cm ほどファールしてしまい残念であった。

### 田中 悠貴(4) 13m18

田中は、一本目は全体的にスピードがあまり出ておらず、いつものキレがなく記録



は13m18。続く二本目は、踏み切りを意識したのか、助走が間延びしてしまった。2cmほどわずかにファール。三本目は、助走からホップまでは良い流れだったのだが、ステップ、ジャンプで完全に潰れてしまい、足が合わずにファールとなった。田中としては満足のいかない結果になってしまったが、今後の復調に期待する。

### 男子 砲丸投

#### 13位 酒井 利晃(3) 9m32

酒井の一投目は力強い投擲。もう少し下半身が使えると、さらに記録は伸びたであろう。続く二投目は、先ほどより左腕をうまく使えていなかった。また重心の高さも気になった。三投目は、重心移動がうまくいかず、砲丸にうまく力が伝わらなかった。

#### 14位 佐藤 雄也(1) 8m22

大学初戦となる佐藤。一投目はしっかりした投擲で砲丸を押し出したが、もう少し思い切りがほしいところである。続く二投目は体重をしっかり乗せた投げで、先ほどより記録を伸ばした。三投目は慎重になってしまい、勢いがもう少しあればなお良かった。

#### 15位 箕輪 純尚(1) 8m17

デビュー戦の箕輪。一投目はグライドの流れはよかったが、ブロックが流れてしまい高さが出なかった。続く二投目は、身体を使えていなく、手投げになってしまっていた。三投目は全体的に動きが小さく、砲丸にうまく力が伝えられなかった。

### 男子 円盤投げ

#### 8位 石川 遼(3) 34m03

一投目は、思い切りのいい投擲でいつもより円盤を引っ張っていた。二投目は、記録を意識したためか、バランスを崩してし

まっていた。続く三投目は、勢いのある良い投擲ではあったが、記録は一本目ほど伸びなかった。見事決勝に進んだ四投目は、三投目とほぼ同じような投擲となった。五投目は、全体を通してうまくまとめられず、本人も満足のいかない様子。最後の投擲は、気合が入っていたが、円盤がブレてしまい、記録更新にはならなかった。

#### 16位 山崎 大志(4) 28m44

山崎の一投目は、方向が定まらず右に抜けてしまいファールとなった。続く二投目はしっかりとターンできていたが、30mを超えず、28m44。三投目も、思うような方向に飛ばせず、大きく抜けてしまった。

#### 20位 佐藤 雄也(1) 18m51

一投目は、身体全体を使わない立ち投げ。腕だけで投げていった。二投目は身体がふらつき、円盤に力を伝えられなかった。体幹をもう少し鍛えた方がよい。三投目は、大きく振り切れていたが、記録は思うように伸びなかった。まだ一年生なので今後の成長に期待したい。

### 女子 円盤投げ

#### 4位 青木 千景(1) 29m17

投擲女子の新戦力、青木が出場。一投目は緊張のためかターンがかたくなってしまい、円盤が右にそれて距離を稼げなかった。二投目はまだターンにぎこちなさは残るが、うまく振り切った。三投目は、反対にターンはまっすぐ進んだが、振り切りが甘くなってしまった。決勝に進んでの四投目は、全体的に少し小さい動きになってしまった。続く五投目は、ターンに速さが増していい流れで投擲をすることができた。最後の投擲は、円盤に力の伝わったいい投擲だった。一年生ながら早くも部記録を更新した。

## 男子 ハンマー投

### 10位 田附 遼太(M1) 32m83

田附は一投目、ターン中うまく進まず、ハンマーが思うように飛ばなかった。二投目は、3ターン目が窮屈になってしまい、勢いが足りなかった。最後の投擲は、二投目同様にターンが窮屈になってしまい、フィニッシュが弱く、うまくハンマーに力を伝えられなかった。

### 11位 酒井 利晃(3) 32m27

酒井の最初の投擲は、うまくハンマーを振り切れず、思うように記録が伸びない。二投目は、動きがバラバラだったが無理やり放った感じがしていまひとつだった。三投目は投擲の流れはよかったがフィニッシュ動作がものすごく乱れていた。しかし、その割には飛距離が出ていたので、もったいなかった。

### 13位 山崎 大志(4) 27m13

山崎の一投目は、フィニッシュ動作がうまく決まらなかった。二投目は、2ターン目がうまく進まず、ぎこちなくなってしまう。三投目はターンの流れとフィニッシュ動作が噛み合わず、いまひとつであった。

## 男子 やり投

### 2位 杉本 和志(M2) 64m43

杉本の最初の投擲は、勢いも高さもあり、しっかりと地面に突き刺さった。続く二投目は一投目よりも伸びがあり、力の伝わる投擲だった。三投目はやりが抜けてしまっていた。四投目はやりの先が上を向きすぎ、風の抵抗を受けて記録は伸びなかった。五投目の投擲は力強く、記録を大幅に伸ばした。優勝のかかった最後の投擲は、手拍子に乗せて、さらに記録を伸ばしたが、優勝

には届かず惜しくも2位となった。北日インカレでのリベンジに期待している。

### 11位 伊藤 泰彬(3) 54m42

一投目は、痛めている肘をかばいながらそこそこうまくまとめた投擲。続く二投目は、記録を狙って一投目よりも力強い投げであった。三投目は助走との繋がりが良くなく、記録を伸ばすことができなかった。決勝に進出できず、悔しい結果となった。

### 17位 中道 和輝(4) 47m54

中道の一投目は、振り切りが弱く、もう少し思い切りの良さがほしいところ。全体の流れは悪くない。二投目は、一投目からうまく切り替え、しっかりとやりを振り切って47m54で見事自己ベストを更新した。三投目は力が入りすぎ、記録を伸ばすことはできなかったが、久々のベスト更新に本人も喜びをあらわにしていた。このまま好調を維持してほしい。

## 男子 混成十種競技

### 9位 竹原 大(2) 総合得点 4098

11"45(+1.3)-5m26(+0.5)-6m53-1m50-53"11-22"13(-0.3)-15m95-NM-38m64-4'32"27

竹原はまず初日の100mで自己ベストを叩き出すと、続く走幅跳び、砲丸投げ、走高跳びと次々と自己ベストを更新し、持ち前の体力で初日を乗り切った。2日目も、疲労が溜まっている中で、円盤、やり投げ、最終種目の1500mでも自己ベストを更新し、結局十種競技のうち八種競技でベストを出すという素晴らしい結果で締めくくった。混成を専門とする他選手の中でも劣ることなく、自分の力を存分に出し切った内容であった。課題は110mHと棒高跳びだが、どう見ても練習不足が原因なので、ある程度練習を積めば、得点はグッと伸びる

と思われる。また、専門は短長の選手であるので、400m でもう少し得点を稼ぎたいところであった。それでも、練習不足の競技も数多くあったと思うが、そんな中で4000点を越える得点を得たことは大きな自信につながったことだろう。今後のさらなる活躍に期待している。

### **DNF(5079) 藤井 翼(M1)**

**11"67(+0.9)-6m14(-1.0)-9m99-1m70-  
53"91-16"63(-0.6)-26m81-3m90-33m68-  
DNS**

優勝を狙う藤井は、100m でそこそこ良い記録を出し、まずまずの滑り出しだったが、続く走り幅跳びは、実力からいけばもう少し得点を稼ぎたかった。それでも、続く砲丸投げ、走高跳びとしっかり高得点を

獲得し、十分に優勝を狙える位置で初日を終える。続く2日目は、110mHからのスタートで、惜しくも競り負けて2着となるが、タイムは悪くなく、まだまだ巻き返しを狙う。しかし、競技の際に足首を痛めてしまい、痛みをこらえて残り4種目をこなさなければならなくなってしまう。それでも、次種目の円盤投げは意地で乗り越え、混成選手の強さを見せつけた。しかし、九種目目となるやり投げでは、思い切った助走ができず、棄権せざるを得ない状況となってしまった。藤井はこの時点で5000点を越えており、またあと1種目を残しての棄権はとても悔しかったただだろう。この無念を次の大会にぶつけてくれることを期待する。

### **自己記録更新者一覧(4/2~5/31)**

- ・男子 200m  
南 共哉(4) 22"22(東北インカレ)
- ・男子 400m  
南 共哉(4) 49"20(東北インカレ)  
畑岡 進(3) 50"16(東北インカレ)  
新田 翔太(3) 50"93(七十七記録会)
- ・女子 5000m  
梶山 あずさ(2) 19'25"65(東北インカレ)
- ・男子やり投

- 中道和輝(B4) 47m54(東北インカレ)
- ・男子ハンマー投げ  
酒井利晃(3) 32m27(東北インカレ)
- ・男子棒高跳  
高橋拓実(B1) 4m60(東北インカレ)
- ・男子走幅跳  
岡崎和貴(B4) 7m33(東北インカレ)
- ・十種競技  
竹原 大(B2) 4091点(東北インカレ)

### **◎今後の予定**

- ・6月29日 北大戦 …岩見沢市
- ・7月13~14日 宮城県選手権大会 …宮城スタジアム
- ・7月27~28日 七大戦 …長居第二(大阪)

### **◎編集後記**

東北インカレが終わり、もう北大戦も間近に迫ってきました。今年は男女共に力のある一年生が数多く加入し、北大戦、七大戦での男女優勝に期待がかかっています。これからも一日一日を大切にして、日々努力を重ねていきたいと思っています。今後も力強い応援どうぞよろしくお願い致します。

文責 副務 千葉愛里沙

三秀会会員 各位

東北大学陸上競技部三秀会 会計 新田翔太

### 会費納入のお願い

拝啓 会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は三秀会にご協力とご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、平成 25 年度会費納入についてお知らせ致します。本年度もご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、過去 2 年間会費納入の無い会員の方への三秀送付(春頃予定)を見合わせております。会費納入を万一お忘れになっている場合、是非納入をお願いいたします。

また、七十歳以上の方については、会費免除となっておりますが、ご寄付を頂ければ幸いです。

敬具

三秀会費規定 一般： 年額一口 1000 円 3 口以上  
陸上競技部部員(学部生)： 年額一口 500 円 3 口以上

- ・会費は他年度への充当をご遠慮しております。ご入金は全て当該年度として扱います。
- ・ご夫婦の連名による入金の場合、お一方の未納通知に未納と印刷される場合がありますが、適切な認識の下、お取扱しております。ご了承ください。
- ・特別な場合を除いて会員各位様によるご入金はすべて「三秀会費」として扱わせていただきます。

#### (1) 郵便振込

送金先：郵便振替口座番号 02270-3-9099

口座名：東北大学 陸上競技部 三秀会

- ・金額の前に¥記号をつけないでください。
- ・口座番号は右詰めでご記入ください。
- ・通信欄に下記事項を必ず明記してください。

氏名 (卒業年度)

入金金額 円 内訳 (会費 その他 )

#### (2) 銀行振込

振込にはご本人名義でお願いいたします。

口座番号：りそな銀行 仙台支店 普通 315-1305830

口座名義人：三秀会

#### (3) クレジットカード

平成 24 年度からクレジットカードによる送金はなくなりましたのでご注意ください。